

2021年2月16日

新型コロナウイルス対応ガイドライン ver2

【選手・チーム】

- ① 選手、指導者または選手、指導者の（同居する）家族が感染した場合や濃厚接触者となった場合、その選手、指導者は練習や試合などチームの活動すべてに参加してはならない。チームは直ちに活動を停止し、必ず支部を通じて連盟に報告する。全国大会の場合、チームまたは連盟は日本協会に報告する。大会を継続するかどうかは、大会役員が協議して判断する。
- ② 選手、指導者は、試合会場に来る前に検温し、その（同居する）家族も含め体調がよくない場合（37.5℃以上の発熱、咳、咽頭痛、倦怠感、息苦しさ、味覚・臭覚の異常等の症状）、その選手、指導者は練習や試合などチームの活動すべてに参加してはならない。
- ③ 14日間以内に感染者との接触や濃厚接触者と特定された者は、すべての活動に参加してはならない。ただし医師からの許可を得た者は参加を認める。
- ④ 選手はプレー中以外、マスク着用。指導者、チーム関係者、保護者などは試合中もマスクを着用する。ただし選手は、熱中症のリスクが認められた時には、球場責任者の許可があった場合にはマスクを外してもよい。
- ⑤ 熱中症にも十二分の注意を払う。水分の補給。日陰での休息など。
- ⑥ 移動中はすべての車両でマスクを着用し、前後左右密着せず、換気に十分注意する。
- ⑦ 大会に出場する際、チームは健康チェックシートを持参し、大会本部に提出する。
- ⑧ 球場への入場の際および食事の前はアルコール消毒を実施する。
- ⑨ 試合終了後はすみやかに球場を離れる。
- ⑩ 宿泊施設では1人部屋とし、同じフロアに宿泊することが望ましい。
- ⑪ 宿舍での不要不急の外出は控える。コンビニ等での買い物は認めるが、必ずマスクを着用し大人数にならず、多くても2、3人までとする。
- ⑫ 試合の2週間前からできる限り会食はしない。食事中は会話をせず、食後マスク装着後に会談する。
- ⑬ 選手の体調には監督、事務局長などチームスタッフが注意深く見守り、無理をさせないように努める。
- ⑭ インフルエンザワクチン、コロナワクチンは可能な限り接種する。

【試合について】

- ① アルコール消毒液をベンチに常備し、ベンチ内共有物や手指の消毒をこまめに行う。
- ② 狭いベンチ内での密を避けるため、ベンチ外にパイプ椅子を置き、防球ネットを設置するなど安全対策を施し10人程度をベンチ外に出す。ただし、球場の施設利用制限などで設営できない場合にはベンチ裏のスペースやスタンドへ退避させるなど配慮する。
- ③ 試合前後の整列（挨拶）では握手を行わず声出しも控える。整列する時に密になると思われる場合は2列に並んでも良い。
- ④ ベンチ内でも握手、ハイタッチは行わない。
- ⑤ ベンチ内では3密にならないよう、できるだけ選手同士の距離を2m以上とる。また、スタッフ同士、スタッフと選手の距離も2m以上とる。とくに攻撃中は選手間の距離に注意する。声出しは控える。
- ⑥ 監督を含めメガホンの使用は禁止する。
- ⑦ バット、ヘルメット、捕手マスクなどで共用するものは、都度、消毒する。
- ⑧ ベンチ前での指示はできるだけ少人数で選手間の距離を十分にとる。円陣を組んでの声出しは行わない。

【チーム同行者・観客】

- ① 保護者などチームに同行する者や同居する家族が感染、または濃厚接触者となった場合、練習や試合などチームの活動すべてに参加してはならない。同居し、濃厚接触者となる選手もチームの活動すべてに参加してはならない。また、チームは必ず支部を通じて連盟に報告する。
- ② 保護者などのチーム同行者は試合会場に来る前に検温を実施し、その（同居する）家族も含め体調のよくない場合（37.5℃以上の発熱、咳、咽頭痛、倦怠感、味覚・臭覚の異常等の症状）、保護者などチーム同行者、または選手を含むその（同居する）家族は練習や試合などチームの活動すべてに参加してはならない。
- ③ 観戦中もマスクを着用する。
- ④ 保護者やチーム関係者の人数は極力絞り、できるだけ少ない人数とする。
- ⑤ 入場する者は全員、入退記録（時刻も含む）を付ける。
- ⑥ 入場時、アルコール消毒を実施する。
- ⑦ スタンドでの応援はメガホンの使用や大きな声出し、全員での合唱などは禁止する。できるだけ拍手までとする。
- ⑧ 隣同士の間隔をできるだけ空ける。
- ⑨ 宿泊施設では1人部屋とし、同じフロアに宿泊することが望ましい。

【大会役員】

- ① 役員が感染、または濃厚接触者となった場合、練習や試合、または行事等に参加してはならない。
- ② 大会役員は会場に来る前に検温を実施し、その（同居する）家族も含め体調のよくない場合（37.5℃以上の発熱、咳、咽頭痛、倦怠感、味覚・臭覚の異常等の症状）、上記行事等に参加してはならない。
- ③ 常にマスク着用。
- ④ 入場時、アルコール消毒を実施する。入退記録（時刻も含む）を付ける。
- ⑤ 試合終了後、ベンチなどを消毒する。
- ⑥ 各試合間にチーム同士が重ならないように努める。
- ⑦ 本部席、審判室、アナウンス室などは密にならないように努め、十分な換気を行う。なお、アナウンサーはマスクに加えフェイスガードをすることが望ましい。
- ⑧ 場内アナウンスでは、熱中症対策に加えて、感染防止策を重ねて流す。チームごとでも応援者に注意喚起を行う。

【メディア対応】

- ① 検温を実施し、同居する家族を含め体調のよくない者（37.5℃以上の発熱、咳、咽頭痛、倦怠感、味覚・臭覚の異常等の症状）は、入場を認めない。
- ② 入場時、アルコール消毒を実施する。
- ③ 氏名、社名、連絡先を記入（入退時刻を含む）してもらう。
- ④ マスク着用をお願いする。
- ⑤ 取材の際は、対象者との距離をできるだけ空けてもらう。

※感染拡大防止にご協力をお願い致します。大会への出場は強制ではありません。チームは選手、保護者にしっかりと説明し、承諾、同意を得た上で出場してください。選手やチーム同行者に感染者が出た場合、チームはただちに活動を停止し、大会は中止する場合があります。

濃厚接触者の定義

- ・患者と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内を含む）があった者
- ・適切な感染予防策無しに患者を看護もしくは介護していた者
- ・患者の体液等に直接接触した可能性が高い者
- ・患者と 15 分以上にわたって、必要な感染予防策なしで 1 m～1.5m の距離で接触があった者

本ガイドラインは 2020 年度に発行したものに加筆、修正を加えたものです。厚生労働省、スポーツ庁をはじめ、多くの団体等の文献や資料を参考にさせていただいておりますが、実際にはここに表記できていない事案も起こりうる可能性はあります。周囲の状況に応じて改定する場合があります。また、日本スポーツ協会が制定した「スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」も合わせて参照いただければ幸いです。

監修:中山 理一郎

国際親善総合病院 総合内科部長
日本循環器学会専門医
日本内科学会総合内科専門医
日本心臓病学会特別正会員
日本心血管インターベンション学会名誉専門医
日本スポーツ協会公認スポーツドクター
AHA・BLS・ACLS-E Pプロバイダー
日本プライマリケア連合学会認定指導医

岩間 徹

日本リトルシニア中学硬式野球協会顧問ドクター
医療法人社団 潤生会 岩間整形外科理事長 医学博士
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本整形外科スポーツ医学会代議員
日本臨床整形外科学会スポーツ委員会委員長